

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東通り )

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	令和2年12月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相手の立場に立ち、本人の思い・希望に添ったケアを心がけています。尊厳を大切に自立支援を心掛け、待つ姿勢を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォー・ユー		
所在地	山形県山形市小白川町2丁目3番31号		
訪問調査日	令和3年1月27日	評価結果決定日	令和 3年 2月 15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果はGHあすなる南陽 東通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(チームワークで困難を乗り越ろう)の南陽独自の理念を掲げ職員での助け合いや話し合いを行って理念は事務所に実行している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は近所の方の面会も短時間となっている。敬老会の粗品や隣家より花、保育園から毎年収穫した野菜などが届いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や慰問もなくなった状態だが、コロナ以前は南陽高校の生徒がボランティア来所された時に認知症について説明し理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地区長・地域の方・民生委員・利用者家族の会長をお招きし2か月に1度開催している。意見やアドバイスを頂き質問にはなるべく多く答える様にしている。今年度はコロナ感染症予防の為、施設に招いての開催はしておりません。書面での開催となっております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉課とはコロナ対応の衛生面等での連絡や相談をし、入居者の情報提供などの協力を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	自由とリスク考えながら見守りや付き添いを行い安易に拘束しないよう職員みんなで協力し、玄関には施錠せず過ごしている。どうしても身体拘束が必要な時はご家族に説明をし理解をして頂いたうえで同意書を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで虐待の内部研修の時間を設け意識して対応を心掛けている常時職員間で気をつけ声かけ注意し合っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	問題がある場合などあるいは必要に応じて管理者と話し合いが出来ている。身元引受け人、主治医、市役所とも情報提供ができるようにしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約の際に退所理由等の説明を行っている、やむを得ず入院となった場合でも十分に説明をし主治医の意見書を踏まえスムーズに移行できている。また家族が聞きやすい雰囲気づくりも気をつけている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あすなるの会で年1回アンケートを実施し意見や要望を出して頂き、管理者や職員で運営に反映させている			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで各会議の報告と職員の意見を聞く場を設けている、また個別面談等を行い職員の意見を聞ける機会持つるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者を通し毎日本部に報告し職員の家庭環境や事情を考慮し勤務形態や希望休み等の相談に応じ安心して働けるようにしている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修でのスキルアップに努めている本来なら外部研修などに参加するが今年度はコロナのため中止になっている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH置賜ブロック会に参加して情報交換を行っている他事務所との交換実習を行い日頃のケアの参考とし現場に活用するよう努めている。コロナ感染対策により未実施			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に訪問調査を行い情報収集をもとに本人とも面談、家族からも聞き取りし入居後戸惑いが軽減するよう配慮している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査時の情報や記入の詳細事項だけでなく話す機会を設け家族とのコミュニケーションを図っている介護計画の説明時に要望もききとりできるだけ近づくよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に話を伺い緊急度の見極めを行っている。必要に応じ医療の指示を受け対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験や生活歴から日々の生活をしていくことを感じていただけるよう努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や本人の状況を理解し支えていただけるよう状態を説明、信頼を得ることで家族にも関わっていただけるよう対応、支援している			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会、訪問時はゆっくり会話できるような環境を整え、また、いつでも来ていただけるよう声掛けしている。行事にも参加を促している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や得意なことを活かしながらお互いに会話できるよう職員が仲介して耳の遠い方にも話しの内容が理解できるようにしている。レクリエーションの際にもお互いに応援し合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所された際は見舞いや面会に行き本人の状況を確認している。会話の中で情報交換を行い不安や悩みを相談できる体制を整えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わり、入所前の生活歴から本人が望むことを推察しカンファレンスでも情報共有連携しながら支援している。家族にも相談しながら意見を元に支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントでその人が過ごした生活を理解し、生活リズムにおいてもその方が望んでいるペースを尊重して過ごせるよう配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が自分らしく穏やかに過ごせる一日の流れを判断、心身状態を把握してできることを見極め職員同士でも情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで状況を報告しアセスメントや3ヵ月毎のモニタリングを行っている、必要に応じて家族にも意見を伺い状況に応じた計画の変更再作成も行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子やケアの状況を日々観察し職員間で共有している。変化があれば話し合いケアプランに見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各人の地域資源の把握に努めてはいるが、外出が制限され地域の方の交流はできていない		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し主治医を決め受診している。受診が困難な方は往診できる様対応している。体調やバイタルを主治医に伝えられる様書面で報告。必要に応じ電話や同行も行っている		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者の状態を把握し、変化があった場合、施設看護師が医師との仲介をして情報をスムーズに伝えられている		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の症状の報告書や介護サマリー等を提供し病院関係者と情報交換に努めている。また入院中は看護師や相談員と情報交換し早期退院出来るよう支援している		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化の意は確認書を記入してもらい事業所の現状においてできる事出来ない事を家族に説明している。また、介護度が上がった場合等も部度話し合いを行うなど、医療、家族と共有相談しながら支援している。現在、看取りはしていない。入所時、ご家族にも説明を了承して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命救急講習を受け緊急時に備えている。また、施設看護師に講習してもらい実践力をつけている			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行って非常時に備えている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊厳するような言葉掛けやプライバシーが保たれる様な対応を心掛けている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者さんとコミュニケーションを取り思い抽出するようにしている。また、自己決定できる様、言葉掛けに注意し支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活歴に合った、その人なりの生活ができる様に支援している。また、業務が優先されることが無いよう、その都度見直しをしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や本人の好みやその人らしい服装ができるよう心掛けながら支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の物や季節の物を下ごしらえしたり食材を切ったり、盛り付けをしたり一緒に食事を楽しみながら支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその人それぞれの栄養状態に合わせて提供をするようにしている。水分は個々の好むものを提供し声掛けを心掛けている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けし、難しいところは介助している。年に一回の無料歯科検診を行い希望者には訪問歯科を利用している。歯科医師などと連携し支援している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせて声掛けをしている。トイレで排泄をすることで自信を持てるように支援している。排泄チェックをしながらトイレ誘導をしている。夜間はその人に合せ、リハビリパンツ・オムツ・パットなど調節している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、メニュー、繊維食品、乳製品の摂取を工夫したり、水分を多く摂取して頂くよう工夫している。個々の状態に合わせて、下剤で調整している。下剤はその都度医師・看護師に相談している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を取り入れ週2～3回程度入浴している。時々、入浴剤など使用しながらリラックスできる様心掛けている。重度の方も機械浴の導入により不安感入浴されている。入浴剤としては、菖蒲・みかん・ゆず等の皮で工夫している。拒否の方には声掛けや時間帯等で工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・余暇等は個々に対応している。夜間眠れない等の訴えがある時には一緒に過ごし、飲み物を飲んだりして落ち着けるように声掛けをしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に確認しながら仕分けをしている。薬に変更時には、申し送りをその都度し個々でも確認しながら把握できるように努めている。必要時は主治医に報告・相談している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を連続出来る様に支援している。利用者一人一人の得意なことや家事の中で役割をしています。興味も楽しみながら触れ合いのある生活が送れるように支援している			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来なくなり、その代わり季節を感じられる花と飾りをして、レクリエーションや行事で気分転換をしている			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて本人管理される方もいる。コロナの影響でお出かけが出来ないため、欲しい物は職員に頼んで買ってもらっている			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時いつでも使用出来る			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に季節感を味わっていただけるイラストやハンドメイド作品が飾られている。温度を測定し過ごしやすい空間に努めている			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでTVを見ながら気の合う方とおしゃべりを楽しんで頂いている。また、居室で編み物をしたり、本を読んだりラジオに音楽をきいたり、自分なり時間を過ごせるように支援していく			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテレビやテーブルを置いたり、写真や思い出の品を飾る。安全と落ち着けるような部屋作りに努めている		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お知らせと予定があればカレンダーを活用し洗濯物も自分で干したりする。自立した生活が送れるようにしている		